

## ■今月の特選句

2013年4月号

## 八木健選

## 早口の小鳥のおしゃべり聞きとれず

宮森 輝

「ゆっくり」なら聞き取れるんですか？聞き取れたとしても鳥の言葉を理解できるんですか。はい、私は詩人ですから。納得ですね。

## 春宵や恋の旧字（戀）を分解す

笠 政人

「糸し糸しと言う心」と言うやつですな。「二貝（階）の女が木（気）にかかる」は、櫻ですね。句には春宵の心地良さに戀を破壊して楽しんだ様子が。

## 騙すより騙されたいの四月馬鹿

田村米生

恋心とは、こんなものでしょうか。あれれ、相手はお孫さんでしたか。いずれにしても、「嘘」だと見破りながら信じて見せる老獪な作

## 孕み猫親の許しはあとまはし

小林英昭

人間にも当てはまる。「孕み娘や親の許しはあとまわし」。猫は、父親がどの猫なのか分からん。「昔から猫の世界も出来ちゃった婚」。

## 草餅の生まれは犬の散歩道

上山美穂

蓬餅ですね。美味ですね。自家製ですね。もう一つ頂きましょう。やはり草餅は、肥えた土地に育った蓬に限ります。ほほう、ポチの散歩道のですか。

## 春日向足の爪切り大仕事

川島智子

この苦労は、若いもんには分らん。腰が曲がっているわりには足先に爪切りが届かない。しかも、良く見えないから指先を切って、ほら血だらけ。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- |                                       |      |
|---------------------------------------|------|
| 美少女の歌手が手袋くはへ脱ぐ<br>・・・しょうじょにもあるしょうふの心得 | 越前春生 |
| 横顔も映して鏡春となる<br>・・・三面鏡のお役目ご苦労          | 加藤 賢 |
| 春隣り厠にならぶ武者震ひ<br>・・・横一列に便器を汚す          | 金澤 健 |
| 白梅の紅さず事を忘れしや<br>・・・この娘にはまだ恋の日は来ず      | 小泉花子 |
| 春愁や十七音の句の余白<br>・・・余白部分に本物の詩が          | 白井道義 |
| 足元に春は来てますスニーカー<br>・・・冬に来たのはスケーターだね    | 鈴木哲也 |
| 病院で代金払ひ風邪貰ひ<br>・・・次回は風邪をお返しに行く        | 高橋素子 |
| 春の日の「ももぐみ」さんの遠出かな<br>・・・先生やたら日焼け止め塗り  | 田所國威 |
| 花粉症口で息して魚めく<br>・・・芭蕉の頃も涙目の魚           | ひがし愛 |

**裸体画を冬も掛けたるバーの壁**

・・・季語の世界を混乱させて

松尾軍治

**いい訳のつめの甘さやホワイトデー**

・・・爪の甘皮齧ったのかい

森岡香代子

**お隣の一線越える恋の猫**

・・・猫の世界に道德なくて

柳 紅生

**春嵐ひとふん張りのきかぬ身に**

・・・お互いさまでございますのよ

山本 賜

## ■今月の滑稽句

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 威銃どこ吹く風と鴉どち<br>白木槿落ちし姿は傷ガーゼ<br>雲どちは秋は嫌だと拳出し        | 青山桂一<br>青山桂一<br>青山桂一    |
| 【佳作】 | ゴキブリを悶絶させて水葬とす<br>人も揺れ歌も揺れてるさあ踊ろ<br>汚染ゴミ何処へ棄つる天の川  | 秋月裕子<br>秋月裕子<br>秋月裕子    |
| 【佳作】 | 育毛剤たつぷりプッシュ豊の秋<br>譲らるる席冷房の効き過ぎて<br>気難し面をはづして夫昼寝    | 麻生やよひ<br>麻生やよひ<br>麻生やよひ |
| 【佳作】 | セシウムの心配なくて鴟の贅<br>無防備にぶらりと蓑虫の時間<br>円高のいつまで続く秋日和     | 足立淑子<br>足立淑子<br>足立淑子    |
|      | 子のやつと世帯主なり秋刀魚焼く<br>その昔何があつたか唐辛子                    | 有富洋二<br>有富洋二            |
| 【佳作】 | 敬老の日は好々爺になりすます<br>秋の蚊に施す血などあるべきや<br>曼珠沙華一糸纏はず咲きにけり | 有吉堅二<br>有吉堅二<br>有吉堅二    |
| 【佳作】 | 銀座野分老女の帽子飛ばさるる<br>五臓五感反応鈍き晩夏かな<br>折れそうな瘦躯に百成り林檎の木  | 安藤淑子<br>安藤淑子<br>安藤淑子    |
| 【佳作】 | 杜甫よりも李白が好きで温め酒<br>法学部より医学部へ穴惑<br>県民の期待を背なにバツタ跳ぶ    | 飯塚ひろし<br>飯塚ひろし<br>飯塚ひろし |
| 【佳作】 | サングラス闇は笑ふよ外しましよ<br>青空を掴んで手繰る山葡萄<br>いっばしの農民となり夏帽子   | 井口夏子<br>井口夏子<br>井口夏子    |
|      | 聖断一声白旗となりし日章旗<br>ああアナログ還暦女優の入浴シーン                  | 池田亮二<br>池田亮二            |

- |      |  |                      |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 秋暑しダレた体に喝入れる<br>稲びかり犬と六つ足早送り                         | 石川節子<br>石川節子         |
| 【佳作】 | 右手より左が重き西瓜かな<br>赤蜻蛉つんつん無口で通しけり<br>子規の忌の近づく松山遠くして     | 板倉肱泉<br>板倉肱泉<br>板倉肱泉 |
| 【佳作】 | ひとつぶ種たねなし葡萄にふたつあり<br>OLに蹤くスカー秋の蝶<br>万歩計共に刻みし草虱       | 伊地知寛<br>伊地知寛<br>伊地知寛 |
| 【佳作】 | 夕焼やときに小焼も見たきもの<br>鰻屋は土用の寅の日に行くか<br>諾否みないいと言う子の夏休     | 伊藤浩睦<br>伊藤浩睦<br>伊藤浩睦 |
|      | とりあへず鼻の高さにサングラス<br>豆御飯昔貧乏子沢山                         | 稲沢進一<br>稲沢進一         |
| 【佳作】 | 昼寝する犬の横寝や無造作に<br>銀行へ涼みがてらに預金行く                       | 井野ひろみ<br>井野ひろみ       |
| 【佳作】 | 蓑虫や少しこの世が気にかかる<br>秋立つやうはさばなしに耳立てる<br>秋刀魚焼く匂ひに一杯の飯すすむ | 今城夏枝<br>今城夏枝<br>今城夏枝 |
|      | 文字化けの電子メールの暑気見舞<br>胸高の帯の浴衣の割れやすし                     | 宇井偉郎<br>宇井偉郎         |
|      | たかが西瓜されど西瓜と貪りぬ<br>拘泥もついでに流しシャワー浴ぶ                    | 宇佐美徹郎<br>宇佐美徹郎       |
| 【佳作】 | 涼風の道に寝そべる寺の猫<br>落柿舎の柿のたわわを見上げをり<br>ねこじやらし女房の首を構ひたし   | 氏家頼一<br>氏家頼一<br>氏家頼一 |
| 【佳作】 | ふとこに借用書ある敬老日<br>枯蟪蛄都会育ちの貌をして<br>信心の婆の小銭や敬老日          | 越前春生<br>越前春生<br>越前春生 |
|      | 吹かれみる川原撫子恙なく<br>月を待つ天変地異の年なれど                        | 奥脇弘久<br>奥脇弘久         |

	盆の寺クールミストに合掌す 空けば即優先席に蠅とまる	笠 政人 笠 政人
【佳作】	山は晴れ里はコスモス言うことなし 今年の暑さはシーベルトで測る 重陽の菊花の露をいただきぬ	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	節電の所為にはすまじ暑気中 取逃す蟬明日死ぬと言ひ聞かず 知恵熱と言ふ老人の夏の風邪	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	扉開きまづ蟬の声乗込みぬ 翁らの苦勞自慢や敗戦忌 主の来臨説かれてよりの大夕立ち	金澤 健 金澤 健 金澤 健
	無残やな月下美人の朝の形 迷はずに福島産のトマト買ふ 炎帝に好かれ迷惑老いの恋	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	口喧嘩の後の夫婦や梨食ぶる 墓地お持ちですかのセール秋暑し どうでもよき芸能ニュース秋暑し	川高郷之助 川高郷之助 川高郷之助
【佳作】	西瓜かな頭叩いて確かめる 繁華街徘徊している彼岸花 大急ぎ花に化けたる彼岸花	久我正明 久我正明 久我正明
	恋人は迷ふ向日葵大迷路 白日夢闇剥がさるる蠱斯	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	鹿威し活かす殺すは碁盤上 ペコちやんも還暦迎へ敬老日 目黒川さんま居るかと目を皿に	倉方 稔 倉方 稔 倉方 稔
	自慢しあつて撫子の金メダル 宝くじやはり当たらず夏果てる	黒田忠一 黒田忠一
	仲人をせざるをえまい秋の蟬 守りし田よ猿飛佐助読みながら	小杉 隆 小杉 隆
	林檎でもなんて母立つベッドシーン	小林英昭

	猥談は腹がすくもの夜食とる	小林英昭
【佳作】	天気より電力予報気にかかり 「ただいま」と同じ数だけ「おかえり」を 「古希の会」今より若い時は来ず	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
	秋茄子やこれみよがしに嫁喰らふ ななかまど嫁の怒りのけぶりかな	酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	いい加減に生きて真っ当阿波踊り 吾亦紅少し遠回りしたみたい 消印は月より届く便りかな	坂本牧子 坂本牧子 坂本牧子
	皮剥ぐごと汗の下着を脱がさる 肩に来てとんぼが恋を語りけり	佐藤古城 佐藤古城
【佳作】	芋の葉の破れて露を宿さざる 野田改権ナデシコジャパンの陰になり 浄財の未だ届かずに台風禍	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
	夏痩せて美貌の険のうすみどり 数学のラツキヨも昇けり荒神輿	猿渡 仁 猿渡 仁
【佳作】	秋出水背中合せの泣き所 物申す腹の虫とて虫は虫 リヤカーで案山子役終へ戻りくる	澤田蔦恵 澤田蔦恵 澤田蔦恵
【佳作】	嫁はんは食はず嫌ひの秋茄子 子規の忌に不出来な弟子の吾も来て 人間なんて小さなものよ蟬時雨	塩川友艸 塩川友艸 塩川友艸
【佳作】	いたずらも雲の勝手や雷落す 生身霊頭皮三本寿(いのちなが) 野馬追や掲げる旗も人馬なく	柴田真一 柴田真一 柴田真一
【佳作】	八代亜紀つくづくと良き温め酒 話す事聞きたき事やおでん鍋 口程もなく酔ふ婿やおでん鍋	清水吞舟 清水吞舟 清水吞舟
【佳作】	間引菜を諭してをりぬ今朝もまた 思はずも数へてしまふ鶏頭花 残る蚊の若き血潮にまみれをり	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 駄目まだとメロン腐らす引き延ばし<br>鼻ぺちやの悲哀知つてるサングラス<br>泥鱈汁続くや夜の些と不安 | 壽命秀次<br>壽命秀次<br>壽命秀次    |
| 【佳作】 | たじたじとなりし野良猫さるすべり<br>誰一人口には出さず敬老日<br>ひそひそと耳打ち話虫しぐれ    | 白井道義<br>白井道義<br>白井道義    |
| 【佳作】 | 蝉の声聞いてまるまる南瓜<br>うんでもすんでもない太った南瓜<br>秒針と鉢合せする不整脈       | 鈴木和枝<br>鈴木和枝<br>鈴木和枝    |
| 【佳作】 | 傘持たず夕立に会い雨宿り<br>日も沈み田んぼの中に水の音<br>草いきれ庭の中には黒い影        | 鈴木哲也<br>鈴木哲也<br>鈴木哲也    |
| 【佳作】 | 大阪のおばちゃん律儀カンナ咲く<br>秋の雷一度の恋が命取り<br>建前も本音もあって黒葡萄       | 鈴木みのり<br>鈴木みのり<br>鈴木みのり |
| 【佳作】 | 敬老日プレーボーイの抜け切れず<br>代官所裏街道は夜這星<br>又しても大吉みくじ神の留守       | 高田敏男<br>高田敏男<br>高田敏男    |
|      | 山里を壊して野分知らん顔<br>御仏に選ばれし者生身魂                          | 高橋マキコ<br>高橋マキコ          |
|      | いつだって願い半分星流る<br>すんなりとミントの鉢に赤のまま                      | 高橋 都<br>高橋 都            |
|      | 蜘蛛と争ひ狭庭の所有権<br>俳人に仏にされた生身魂                           | 高橋素子<br>高橋素子            |
| 【佳作】 | ロボットも運動会に出したいな<br>星の飛びグラスに落ちし恋の夜<br>菊人形首ぼんと抜き片付け     | 田中章子<br>田中章子<br>田中章子    |
| 【佳作】 | 立秋や六十五歳の生まれ日<br>この残暑ではつぶやき句創るなり<br>秋めくや新刊書読む事多し      | 田中 勇<br>田中 勇<br>田中 勇    |



【佳作】	電子辞書豚に真珠やちゃんちゃんこ サマージャンボ溜息太く吐きにけり 雷に我が家のテレビ恋されて	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	総理も行く千円床屋秋の蝉 遠雷にゴルファー走るフェアウェー タオルケット昼寝の腹に一文字	種谷良二 種谷良二 種谷良二
【佳作】	案山子にも真面目不真面目ありにけり 秋茄子の婆より嫁に食はれたし 硬書より軟書親しむ秋燈下	田村米生 田村米生 田村米生
【佳作】	「死は恐ろし」と老僧つぶやき爛熱つし 義理不義理大根白く牛蒡は黒し 踊太鼓打つへっぴり腰もいてよろし	土居忠行 土居忠行 土居忠行
【佳作】	乗り継ぎて見る人になる阿波踊 二日酔ひの色は見せずに酔芙蓉 フクシマでなくふくしまの桃届く	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	秋来ぬと風に驚く馬の耳 花木糧食われる程に咲きもせず 名月を取ると親子で梯子掛け	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	母の介護よこで情事の赤蜻蛉 母の介護合間の逢瀬秋の虹 母の介護父が愛せし性器拭く	秋川竹宝 秋川竹宝 秋川竹宝
【佳作】	気短の父の怒りはいま蝉へ 新盆やバイクの僧のヘルメット 秋の蚊の一度は逃れ懲りもせず	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	稲雀数を減らして愛さるる いかづちと電子メールが競争す 大雨の責任取れずアメフラシ	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	もう願い一つに絞れる星流る 病床のゲーチョコキパーや蝉時雨 本当はテレパシーだが門火焚く	彦阪義久 彦阪義久 彦阪義久
	捨案山子雀遊びに来てをりぬ 柚子風呂に拉げて沈む胸二つ	久松久子 久松久子

- 【佳作】 枝豆や口八丁に手八丁 久松久子
- 【佳作】 単四電池程の命や蝉生まる  
 蝸や切字のかなを連ね鳴く 日根野聖子  
 不穩潜む二百十日の風にかな 日根野聖子  
 日根野聖子
- 【佳作】 猫老いぬ狗尾草に飽きの来て 広瀬雅幸  
 不易とは冷し中華のことであり 広瀬雅幸  
 種無しで巨峰と名乗る虚勢かな 広瀬雅幸
- 【佳作】 肥えし尻八月に鳴けきりぎりす 藤岡蒼樹  
 項垂れる塾点数の休暇明 藤岡蒼樹  
 手術後の虫垂炎や放屁虫 藤岡蒼樹
- 【佳作】 ポイントのどんどんたまる暑さかな 藤森荘吉  
 猛暑には怒り笑ひに転じたり 藤森荘吉  
 あつちもこつちもそつちも暑い今日 藤森荘吉
- 【佳作】 蝸の見送り夫の入院は 藤原セツ子  
 口べたな男の子のためや桃を剥く 藤原セツ子  
 盆トンボまつすぐに来し父祖の庭 藤原セツ子
- 【佳作】 同じ巢で二回子育てした燕 古野セキエ  
 立秋がなんだとばかり蝉が鳴く 古野セキエ  
 追い討ちの豪雨洪水夏終わる 古野セキエ
- 【佳作】 抜け駆けをしていつたきり夜這星 前川敏夫  
 親に見せつけ七夕の願ひごと 前川敏夫  
 究極の省エネうちわと手の力 前川敏夫
- 【佳作】 稲刈るや帰農新米元株屋 前 九疑  
 出来秋やリストラの子が刈り進む 前 九疑  
 谷の田は痩せ稲を刈るメタボかな 前 九疑
- 【佳作】 此秋も不如意たしかな空模様 松尾軍治  
 靴脱いで腑抜け顔なる残暑かな 松尾軍治  
 秋集う女優監督団鬼六 松尾軍治
- 【佳作】 地に宙(そら)に鳥人舞ひぬ大邱(てぐ)の夏 丸山紘一  
 WOH'S WHO まほろばの顔芒ごと 丸山紘一
- 【佳作】 ピアステふタグ汗の耳貫通す 三木蒼生

	縛られて熱中症の古書の嵩 ぐうの音も出ず夏負けをしてみたり	三木蒼生 三木蒼生
【佳作】	かまきりを共に入れよか迷う子等 目をつぶり蜂の子を食う信濃宿 なき疲れバタッと仰向く法師蟬	三塚不二 三塚不二 三塚不二
	盆そうの経に膝小僧ら畏まる 鴨泳ぐ湖の夏富士こはしつつ	三橋一笑 三橋一笑
【佳作】	春雷にアナログ映像失なへり 血を吸いて動きのとまる藪蚊かな 新聞を丸めゴキブリ仕留めたり	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	八月や飲んでも飲んでも渴く喉 帰省の子時折り語尾に標準語 残暑発成田国際ターミナル	村上美和 村上美和 村上美和
【佳作】	また一人つはもの逝きぬ敗戦日 法師蟬余白が語るメールかな 到来の秋刀魚食べたい食べられない	百千草 百千草 百千草
【佳作】	黴匂ふ勝ちの拳のグローブは 暮世間知らずを押し通す ドライブの果ての売店アイスクリーム	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	老い差別するなら高貴好齢者 血を吸って血族でいきたとにげたる蚊 三一一九一一 NO 三九	森 要 森 要 森 要
【佳作】	滑稽の域に達しぬ阿波踊 迎火に宅配便が訪れる 土壇場で首伸べしごと食ふ西瓜	守屋八郎 守屋八郎 守屋八郎
【佳作】	席順に長幼の序ある敬老日 子規居士を真似て枝豆とばし食ふ 絶筆の三句を褒めて子規忌の客	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	蝸の仮名かなカナと鳴きし哉 法師蟬寺の道場破りしや 見てござる十五夜うさぎ雲の影	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
|      | 七人の敵と競り合ふ髪洗ふ<br>開封の口唇に似て秋うらら                         | 柳 紅生<br>柳 紅生            |
| 【佳作】 | 難聴の電話に遠く虫の声<br>桃届くかつては吾も桃の肌                          | 柳澤京子<br>柳澤京子            |
| 【佳作】 | 風神で あつたか台風之恋はれ<br>台風の追っかけに遭ひ立ち往生<br>片陰を梯子して行く遍路道     | 山下正純<br>山下正純<br>山下正純    |
| 【佳作】 | 藍浴衣妻が美人に見えにけり<br>離乳食めきし食餌や秋渴き<br>遠祖はフナであるてふ金魚かな      | 山本あかね<br>山本あかね<br>山本あかね |
| 【佳作】 | 白鷺の歩きを真似る帰省の児<br>ゴーヤー食む途端に元気出しまふ<br>底知れぬ今夏の汗と涙かな     | 山本けい子<br>山本けい子<br>山本けい子 |
| 【佳作】 | 夏休み上野に絵本のキリンかな<br>水引草コンクリートを破りけり<br>朝がこむみんなお盆でお休みで   | 山本 賜<br>山本 賜<br>山本 賜    |
| 【佳作】 | 雷神の尻突き上げてスカイツリー<br>台風も二号ときけば艶めかし<br>超短パン乙女の放つ暑き風     | 横山喜三郎<br>横山喜三郎<br>横山喜三郎 |
| 【佳作】 | ステテコで用足る暮し余り苗<br>熱中症蝉も夏バテする朝(あした)<br>カンテキで秋刀魚を燻す妻の留守 | 渡辺さだを<br>渡辺さだを<br>渡辺さだを |